

2025

研究要領

宝塚大学大学院 メディア芸術研究科

*

はじめに

宝塚大学大学院メディア芸術研究科は、理論講義と制作・研究のための表現研究との二本を軸に、科目の配置を見直し、各分野に適切に配置しています。原則として、制作・研究を行なうために科目履修は自由に選択できます。ただし、授業のなかでは、一方的に講義を聴くというのではなく、活発な議論や意見交換が行われることを望みます。さらに、大学院で開講される授業を履修しているだけでは、大学院で制作・研究しているとは言えません。専門書、学術書の上、また教室やスタジオ、アトリエの中だけでは、先駆的な作品や研究は生まれません。インターネットが日常的な道具として浸透した現代社会では、手を伸ばすところに世界中の情報が集約できていると錯覚しがちですが、それらは幾重ものフィルターを経たものであり、それらを分別して理解するための受け手のリテラシーが重要なのです。そして、それぞれの「現場」ではもっと生々しい現象やハプニングが起きているはずです。できれば、それらを自らの感覚器官を通して直接受け取り、決して内に閉じるのではなく、外へ発信する作品や研究を高めることを期待します。そのためには、大学院生の身分を大いに活用して、様々な学会や研究会などに参加することも良いでしょう。また、国内外のさまざまな「現場」に出向いてフィールドワークを行なうことを積極的に行なって欲しいと思います。そして、それらを共有する教官が、皆さんに大きな刺激を与えてくれるはずです。

院生にとっては、その両方をどのように活用するかも、本学ならではのキーファクターとなるでしょう。メディア芸術研究科から、能動的な表現者、研究者が登場することを楽しみにしています。

2025年4月1日

宝塚大学大学院
メディア芸術研究科

●大学院の目的

宝塚大学大学院は、美術、デザイン、及びメディア芸術に関する理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め又高度の専門性が求められる職業を担うため、深い学識及び卓越した能力を培い文化の進展に寄与することを目的とする。

●教育研究上の目的

メディア芸術研究科 メディア芸術専攻： 美術、デザイン、メディア芸術に関する理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め又高度の専門性が求められる職業を担うため、深い学識及び卓越した能力を培い文化の進展に寄与することを教育研究上の目的とする。

●アドミッション・ポリシー

1. 芸術創造活動を通じて社会に役立つ幅広い専門性を探求すること。
2. 芸術的製作に関する総合的な視野を修得し、幅広い社会活動に参加すること。
3. 組織的な芸術制作活動をととして、社会の活性化に貢献すること。

●カリキュラム・ポリシー

大学院メディア芸術研究科修士課程は、美術とデザインおよびメディア芸術の分野における学術的で高度な理論を養い、創造力に富んだ研究活動と創作活動に必要とされる芸術家、または、芸術分野の研究者を養成することを目的とする。 学生は、1年次に主専攻における研究分野の理論講義と制作研究のための表現研究を履修して、2年次に主専攻における自主テーマによる制作研究を行う。

●ディプロマ・ポリシー

学部で得た能力に加え、さらに専門的知見を深めるとともに、技術を磨き、専門的職業人として社会に貢献できる者に対して学位を授与する。

1. 芸術学に関して知見、見識を深めたと認められること。
2. 自主的に研究あるいは制作のテーマを設定し、それが成果となって現れたと認められること。
3. 学会発表、公募展への応募などを積極的に行ったと認められること。

目 次

■ 2025年度学年暦	P. 6
■ 学位論文審査・最終試験及び授与判定等の日程表（3月修了）	P. 7
■ 履修要件と修了要件／研究科目と単位数	P. 8
■ 研究要領	P. 9

2025年度(令和7年) 学年暦

宝塚大学 大学院
メディア芸術研究科

	日	月	火	水	木	金	土	備 考		日	月	火	水	木	金	土	備 考
2025 ・ 4月			1	2	3	4	5	3/27(木) 大学院1年生2年生ガイダンス	10月				1	2	3	4	10/4(土) 予備報告会 10/13(月) 平常授業実施 10/23(木)～24(金) 宝翔祭設営・準備(授業停止) 10/25(土)・26(日) 宝翔祭 10/27(月) 宝翔祭片付日(授業停止)
	6	7	8	9	10	11	12	3/28(金)留学生オリエンテーション		5	6	7	8	9	10	11	
	13	14	15	16	17	18	19	3/29(土)～4/3(木) 前期履修登録		12	13	14	15	16	17	18	
	20	21	22	23	24	25	26	3/31(月) 大学院1年健康診断		19	20	21	22	23	24	25	
	27	(28)	29	(30)				4/1(火)大学院2年健康診断		26	27	28	29	30	31		
5月								4/2(水) 入学式	11月								11/3(月) 平常授業実施 11/21(金)学位請求論文題目及び概要提出 11/24(月) 平常授業実施
					(1)	(2)	3	4/7(月) 前期授業開始								1	
	4	5	6	7	8	9	10	4/27(日)～5/4(日) GW休み		2	3	4	5	6	7	8	
	11	12	13	14	15	16	17	5/5(月)・6(火) 平常授業実施		9	10	11	12	13	14	15	
	18	19	20	21	22	23	24	5/23(金) 創立記念日(平常授業実施)		16	17	18	19	20	21	22	
6月	25	26	27	28	29	30	31		12月	23	24	25	26	27	28	29	12/28(日)～1/4(日) 年末年始休業
										30							
	1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4	5	6	
	8	9	10	11	12	13	14			7	8	9	10	11	12	13	
	15	16	17	18	19	20	21			14	15	16	17	18	19	20	
7月	22	23	24	25	26	27	28		2026 ・ 1月	21	22	23	24	25	26	27	1/27(火)～2/2(月) 後期定期試験・補講期間 1/27(火)～29(木) 後期集中講義(仮) ※木曜授業の補講発生時は別曜日で調整 1/16(金) 学位請求論文等提出締切 1/24(土) 中間報告会
	29	30								28	(29)	(30)	(31)				
	1	2	3	4	5	6	7			4	5	6	7	8	9	10	
	8	9	10	11	12	13	14			11	12	13	14	15	16	17	
8月	15	16	17	18	19	20	21		2月	18	19	20	21	22	23	24	2/13入試／2/18判定会議 2/7(土)・8(日) 卒業・修了制作展 2/10(火) 展示審査、公聴会 2/10(火) 審査会
	22	23	24	25	26	27	28			25	26	27	28	29	30	31	
	29	30															
										1	2	3	4	5	6	7	
	3	4	5	6	7	8	9			8	9	10	11	12	13	14	
9月	10	11	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)		3月	15	16	17	18	19	20	21	3/13(金) 学位記授与式(予定) 3/26(木)大学院1.2ガイダンス 4/1(水) 新2～4年・大学院2年健康診断 4/2(木) 入学式、学部・大学院1年健康診断
	17	18	19	20	21	22	23			22	23	24	25	26	27	28	
	24	25	26	27	28	29	30										
	31																
										1	2	3	4	5	6	7	
		1	2	3	4	5	6			8	9	10	11	12	13	14	
	7	8	9	10	11	12	13			15	16	17	18	19	20	21	
	14	15	16	17	18	19	20			22	23	24	25	26	27	28	
	21	22	23	24	25	26	27			29	30	31	4/1	2	3	4	
	28	29	30							5	6	7	8	9	10	11	

曜日別授業回数							
	日	月	火	水	木	金	土
前期	15	15	15	15	15	15	15
後期	15	15	15	15	15	15	15

	… 授業日
	… 夏期集中講義・定期試験・補講期間
	… 定期試験・補講期間
(印)	… 日曜・祝祭日(休業日)
(印)	… 祝祭日(平常授業実施日)
()	… 休業日(大学施設閉館日)

修士課程学位論文審査・最終試験及び学位授与判定等の日程表 3月修了

(2025年度末に学位論文を審査し、学位授与の可否を決定する場合)

※日程に黄色がついているものは学生が行う手続きです。

内 容	日 程	摘 要
1. 論文・作品 審査委員の決定	2025 年 5 月 21 日 (水)	研究科委員会 →学長
2. 学位請求論文予備報告会 ※提出物については、別途連絡します。	2025 年 10 月 4 日 (土)	修了予定者
3. 学位請求論文題目及び概要提出(規定書式) ・・・1 部	2025 年 11 月 21 日 (金) ※17 時 00 分締切	修了予定者 →学務部
4. 学位請求論文等の提出 学位論文審査願 (規定書式)1 部 学位請求論文 (正本)1 部 学位請求論文の内容要旨 (任意書式) ...4 部 学位請求論文の内容要旨データ (任意媒体) ・1 部 作品 (データで提出) 学位請求論文 (副本)4 部 学位請求論文電子データ (任意媒体) ...1 部 論文提出前の自己チェックリスト.....1 部	2026 年度 1 月 16 日 (金) ※17 時 00 分締切	修了予定者 →学務部 →研究科長 →審査委員
5. 論文・作品の予備審査と受理の報告	2026 年 1 月 21 日 (水)	審査委員主査 →研究科長
6. 修了制作展	2026 年 2 月 7 日 (土) 及び 2026 年 2 月 8 日 (日)	本学内
7. 修士課程学位請求論文公聴会／展示審査	2026 年 2 月 10 日 (火)	本学内
8. 論文・作品の審査及び最終試験の実施	2026 年 2 月 10 日 (火)	審査委員会
9. 論文・作品の審査及び最終試験の判定結果の 報告書類の提出 (学務課へ提出) 学位論文審査結果報告書及び最終試験結果報告書 (最終試験の結果要旨を含む)1 部	2026 年 2 月 16 日 (月)	審査委員主査 →研究科長
10. 学位授与の可否決定	2026 年 2 月 18 日 (水)	研究科委員会
11. 学位記の授与	2026 年 3 月 13 日 (金)	学位記授与式

履修要件と修了要件

■ 目 的

本学の造形芸術教育の目的は、美術とデザイン分野を統合し、造形力と計画力のバランスのとれた、創造力豊かな個性ある人材を養成することにある。大学院においては高度な計画策定および造形の教育・研究を実施する。そのことによって社会の要請に対応しうる多彩な人材の養成を目的としている。

政府はメディア・コンテンツを21世紀の日本の重要産業と位置づけ、2003年「e-Japan 戦略 II」のなかで、その重点政策としてコンテンツ制作のクリエイターやプロデューサ養成の必要性を強調している。メディア・コンテンツ専攻では、こうした時代の要請に対応し、映像、マンガ・アニメ、ゲーム、CG制作の高度なクリエイター及びプロデューサの育成をめざす。

本学クリエイター目的にしたがい、大学院生は自己の希望する研究分野を主専攻として選択、履修する。2年次においては、主専攻における自主テーマによる研究を行う。

■ 修士課程 研究科目と単位数

授業科目	履修年次	単位数			備考
		必修	選択	自由	
マンガデザイン論	1～		4		修了要件
マンガデザイン表現研究	1～		2		
アニメデザイン論	1～		4		(1) 論及び表現研究 <u>18 単位選択必修</u>
アニメデザイン表現研究	1～		2		
ゲームデザイン論	1～		4		(2) 研究基礎 (1年次) <u>2 単位必修</u>
ゲームデザイン表現研究	1～		2		
コンテンツデザイン論	1～		4		(3) 自主テーマによる研究 (2年次) <u>12単位必修</u>
コンテンツデザイン表現研究	1～		2		
イラストレーション論	1～		4		
イラストレーション表現研究	1～		2		
映像デザイン論	1～		4		
映像デザイン表現研究	1～		2		
プロデューサ論※	1～		4		
プロデュース演習※	1～		2		
ビジュアルデザイン論	1～		4		<u>合計 32 単位以上</u>
ビジュアルデザイン表現研究	1～		2		
人体構造論	1～		2		
人体機能論	1～		2		
視覚芸術特論	1～		2		
美術史	1～		2		
メディア芸術特論Ⅰ	1～		2		
メディア芸術特論Ⅱ	1～		2		
研究基礎	1	2			
自主テーマによる研究	2	12			

【一部変更や不開講になる可能性があります。】

※2025年度は不開講

宝塚大学・大学院 修士課程 研究要領（2025年度版）

本学修士課程修了に要する研究は、「本学大学院学則」、「学位規程」、「メディア芸術研究科規程」、「修士の学位授与に関する内規」に準拠する。

指導教員の構成と研究主題

1) 指導教員の構成

指導教員は主任指導教員1名、必要があれば副指導教員2名以内の3名とする。学生は所属する研究領域の内から指導を希望する教員（必ず修士課程研究指導担当教員とする）を申請し、当該教員の了承を得て、これを主任指導教員とする。主任指導教員は当該研究領域から1名（第一副指導教員）、関連する研究領域から1名（第二副指導教員）を副指導教員として選定し、指導を依頼することができる。各指導教員の決定は研究科委員会において行う。

2) 研究主題について

学生の研究主題は主任指導教員と相談し、承認を得た後、届出を行う。

3) 成果論文の公開

①大学院修士課程修了生は形式A・B・Cいずれの場合も成果論文（Cの場合は作品解説書）の正本1部を提出する。

②図書館は年度毎に成果論文を所蔵する。

③本学紀要に論文を掲載する場合もある。

【修了にいたる日程】

※各年度の正式な日程は随時連絡することとする。また、日程が前後することもある。

Microsoft Teams、学生用ポータル、本要領を参照のこと。

（2025年度1年次）

4月：研究主題に応じた主任指導教員、第一副指導教員（希望する場合）の決定と、その指導により履修する専門科目、関連科目を選定。

前期：具体的研究主題の選定。

関連科目の教員から第二副指導教員（希望する場合）の選定。

研究主題を主任指導教員の承認を得て学務課へ届出。

決定は研究科委員会において実施。

1月：中間報告会の実施。

2月：1年次の修了報告を各研究領域において実施。

2年次の公聴会への参加。

（2025年度2年次）

4月：修士論文の題目、概要を主任指導教員に報告。

9月：予備報告会の実施。

1月：学位請求論文等の提出。

研究科委員会において学位論文等審査委員〔主査1名、副査2名〕を決定。

2月：学位請求論文公聴会、修了制作展の実施。

1：修士課程修了に必要な研究成果の形式及び書式、審査基準

1) 形式の種別

形式A：論文を成果とする。

形式B：主成果を論文とし、副成果を作品・計画設計案等とする。

形式C：主成果を作品・計画設計案等とし、副成果を論文（作品解説書）とする。

2) 研究成果の書式

【形式A】

○内容

修士論文題目、目次、研究の動機及び背景・目的、研究の方法、結果と分析、考察、参考文献、付属資料等を項目別に整理し論述すること。

○規定

論文字数は 40,000 字以上とする。

○展示

研究成果は修了制作展でポスター展示するとともに、公聴会において論文で述べた考え方・方法をパネル、スライドまたはビデオ等で説明する。

【形式B】

○内容

論文の形式・体裁は形式Aの場合に準拠するが、論文中に作品・計画設計案に関する記述を行うこと。作品に関する記述は作品、計画設計案のエスキース・概念設計部分である。また、制作した作品・計画案の写真等を入れる。

○規定

論文字数は、24,000 字以上とする。

○展示

作品・計画設計案は修了制作展で展示するとともに、公聴会において論文で述べた考え方・方法をパネル、スライドまたはビデオ等で説明する。

【形式C】

○内容

論文（作品説明書）中に作品の意義・背景・方法・成果等の記述を行うこと。また、作品・計画設計案に関する記述を行うこと。作品に関する記述は作品、計画設計案のエスキース・概念設計部分である。また、制作した作品・計画案の写真等を入れる。

○規定

論文字数は 8,000 字以上とする。

○展示

作品・計画設計案は修了制作展で展示するとともに、公聴会において論文で述べた考え方・方法をパネル、スライドまたはビデオ等で説明する。

3) 審査基準

本研究科における「修士論文」または「修士制作及び修士論文」の評価は、大学院設置基準および本研究科のディプロマ・ポリシーに基づいていることを前提とし、以下の観点から総合的に行われる。

【形式 A (論文のみ)】

修士論文は学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果からなり、メディア芸術分野における高度な研究手法の習得を示す新規性を有し、かつ研究成果の国際的な発信に向けた対応がなされていないと認められない。

審査にあたっては、以下の評価項目を考慮しながら検討し、総合的に評価を行う。

(1) 研究の課題設定

論文の問題設定が明確に示され、学術的あるいは社会的な意義を有すると認められるか。

(2) 先行研究の理解と提示

研究主題の探求に際して利用した資料や文献が適切に提示され、精確な読解や的確な評価が行われているか。また、論旨を展開するうえで適切に言及されているか。

(3) 研究方法の妥当性

研究主題探求のために採用された、理論、実験、シミュレーション、試作・試行、調査あるいは資料収集などの研究方法は適切か。

(4) 論証方法や結論の妥当性と意義

問題設定から結論にいたる論旨が、実証的かつ論理的に展開されているか。また、導き出された論旨・結論が、当該分野において新規性を持った学術的貢献や有用性のある社会貢献となっているか。

(5) 論文の形式・体裁

語句の使い方や文章表現は的確か。学位論文としての体裁は整っているか。文献等は正しく引用され、図表等の引用元は明らかにされているか。

【形式 B (主論文・副作品)】

修士論文・作品は学位申請者が主たる創作者として取り組んだ独自の研究成果からなり、メディア芸術分野における高度な表現力と想像力の習得を示す独創性、芸術性を有し、かつ研究成果の国際的な発信に向けた対応がなされていないと認められない。

審査にあたっては、作品と主論文(審査基準は修士論文に準ずる)を以下の評価項目を考慮しながら検討し、総合的に評価を行う。

(1) 主論文・副作品の課題設定

論文・作品のテーマ設定が明確に示され、技術的、芸術的、あるいは社会的な意義、芸術表現者としての資質、将来性を有すると認められるか。

(2) 先行研究の理解と活用

論文・作品に際して参考となる先行作品・先行研究の調査が的確に行われているか。また、これらから得た知見が作品制作に適切に(客観的かつ論理的に)活用されているか。

(3) 研究方法の妥当性

研究主題探求のために採用された、理論、実験、シミュレーション、試作・試行、調査あるいは資料収集などの研究方法は適切か。

(4) 論証方法や結論の妥当性と意義

問題設定から結論にいたる論旨が、実証的かつ論理的に展開されているか。また、導き出された論旨・結論が、当該分野において新規性を持った学術的貢献や有用性のある社会貢献となっているか。

(5) 作品の形式・体裁

作品は、課題設定に応える十分な表現となっているか。また、当該分野において新規性を持った技術的・芸術的貢献や有用性のある社会貢献となっているか。

【形式 C（主作品・副論文）】

修士作品は学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果からなり、メディア芸術分野における高度な研究手法の修得を示す新規性を有し、かつ研究成果の国際的な発信に向けた対応がなされていないなければならない。

審査にあたっては、作品と作品説明書(作品の意義・背景・方法・成果等を記したもの)を以下の評価項目を考慮しながら検討し、総合的に評価を行う。

(1) 作品の課題設定

作品説明書において、作品の課題設定が明確に示され、技術的、芸術的、あるいは社会的な意義を有すると認められるか。

(2) 先行作品・先行研究の理解と活用

作品説明書において、作品制作に際して参考となる先行作品・先行研究の調査が的確に行われているか。また、これらから得た知見が作品制作に適切に(批判的かつ効果的に)活用されているか。

(3) 作品の制作方法と技術力

課題設定に対し、制作方法は妥当であるか。また、制作において、技術的課題は克服できているか。

(4) 作品の表現力と意義

出来上がった作品は、課題設定に応える十分な表現となっているか。また、当該分野において新規性を持った技術的・芸術的貢献や有用性のある社会貢献となっているか。

(5) 作品説明書の形式・体裁

語句の使い方や文章表現は的確か。作品説明書としての体裁は整っているか。文献等は正しく引用され、図表等の引用元は明らかにされているか。

【最終試験に関する審査基準】

最終試験（＊）は、学位を授与するに十分な水準にあるかを評価するものとして、次の基準を満たすものでなければならない。

- (1) 研究の内容について説明することができる。
- (2) 研究の内容に関する質問に適切に回答することができる。
- (3) 当該研究分野に関する専門的な知識を有している。
- (4) 関連する研究分野に関する基礎的な知識を有している。
- (5) 研究内容についてポスター、作品で過不足なく展示できている。
※最終試験は、公聴会における口頭試問と、ポスター、作品展示です。
- (6) 学会発表、公募展への応募などを積極的行ったことが確認できる。

【審査体制】

修士論文又は修士作品の審査は、大学院担当教員から選出した主査 1 名副査 2 名で行う。
また、審査には審査基準を反映したルーブリックを活用する。

宝塚大学大学院 メディア芸術研究科
修士論文 作成要領

■ 修士論文作成規格

作成ツール	MS Word
用紙	A4 横書きまたは縦書き 1 頁文字数規定なし
余白	上 35mm 下 30mm 左 30mm 右 30mm
文字フォント	MS 明朝（各章、節の見出しはゴシック）
欧文フォント	Century または Times New Roman
文字サイズ	11pt（各章、節の見出しは 12pt）
文体	「…である」または「…だ」
章立ての番号	章、節、1、1）、①

■ 修士論文体裁の構成

1. 論文表紙

下記の内容を含む表紙を作成すること。例：

宝塚大学大学院 メディア芸術研究科 2024 年度 修士論文
新入中国人留学生の現状及び指導方法に関する研究
A Study on the Current Situation and Teaching Methods of New Chinese Students
学籍番号：11111111
氏 名：〇〇〇〇
指導教員：〇〇〇〇
修了予定：2026年 3 月
研究形式：〇

2. 論文要旨

研究目的に至る背景、研究目的、研究方法、主な研究結果、結論などの内容を含む論文の概要を 800 文字前後にまとめること。

3. 論文目次

下記を参考にして目次を作成すること。例：

目次	
第1章 はじめに…	1
第1節 概説	1
1 ○○とはなにか	1
2 研究の意義	3
第2章 先行研究分析…	6
第1節 代表的な研究	6
1 ○○研究の成果	7
2 ○○研究の問題	10
第3章 自分の主張	15
第1節 ○○○○○○	16
1 ○○○○○○○○	18
1) ○○○○○○○○	20
2) ○○○○○○○○	22
2 ○○○○○○○○	25
1) ○○○○○○○○	27
第4章 まとめ	30
第1節 ○○○○○○○○	31
1 結論	32
2 今後の展望	35
注釈	40
引用文献	41
参考文献	45

4. 論文本文

詳細については、下記の「修士論文本文の構成」を参照すること。

5. 注釈

注釈とは、論文作成時に使用した語句やことばについての補足・説明・解説のことを指す。注釈は、後注（注釈番号は 1)、2)、3) …) とし、本文中には上付き 1/4 の括弧付きの算用数字で示す。

6. 引用文献

引用文献とは、論文作成のために引用したすべての資料のことを指す。詳細は下記の「引用文献・参考文献リスト作成ルール」を参照すること。

7. 参考文献

参考文献とは、論文を作成するために参考にしたすべての資料のことを指す。詳細は下記の「引用文献・参考文献リスト作成ルール」を参照すること。

■ 修士論文本文の構成

1. 序論

修士論文の本文は序論（序章、はじめになどと称してもよい）から始まる。序論は読者を筆者がこれから述べようとする内容へ誘う部分であり、研究の課題に至る経緯（研究背景）や研究目的、論文全体の構成などを紹介する。

2. 本論

本論は自分の研究内容を展開する論文の中心的部分であり、先行研究を分析し、研究意義、研究方法、研究結果を述べたうえ、その結果に対して考察や分析を行い、自身の主張の正しさを論証していく。

3. 結論

本論から到達した帰結を述べる部分であり、本論での展開を受けて執筆者自身の主張をまとめる。また、本論で解決できなかった問題や今後の展望なども述べる。

注意：序論、本論、結論は必ずしもそのまま章立てに当てはまるわけではない。特に本論は複数の章に分かれて述べられることが多い。

■ 引用文献・参考文献リスト作成ルール

1. 順番

①書籍→論文、③日本語→外国語、③作者・著者名は「あいうえお」順に並べる。

2. 書籍リストの書き方

著者名（出版年）『書名』出版者

例：川崎剛（2010）『優秀論文作成術--プロの学術論文から卒論まで』勁草書房

3. 論文リストの書き方

執筆者名（発行年）「論文名」『雑誌名』巻，号，ページ

例：李春（1997）「デューイの訪中講演に関する一考察」『アジア教育史研究』第6号，PP.12-29

4. 作品リストの書き方

作者名《作品名》制作年、メディア、サイズ、現存地、所蔵者

例：ディエゴ・ベラスケス《ラス・メニーナス》1656 年、カンヴァスに油彩、318×276cm、マドリッド、プラド美術館蔵

注意：図版にはキャプションを付けて出典を示す。

-
- ・「宝塚大学大学院メディア芸術研究科修士論文作成要領」をよく確認し、論文作成を行うこと。
 - ・修士論文作成フォーマットの使用を推奨する。
 - ・正本を1部、副本4部及び論文の電子データ【CD-R、DVD-R、USB 等】を提出する。
 - ・正本提出時は所定の様式で作成すること。正本用の表紙等は学務課で配布します。
 - ・表紙には論文題目、所属、学籍番号、氏名を記載する。
 - ・論文冒頭には必ず論文題目、論文題目の英語訳、及び概要を付す。

※ 本作成要領をよく読んで、所定の書式、所定の期限までに作成し、事務局学務課まで提出すること。

※ 他人の文章などを盗用し、自身の発表とする行為は絶対にしてはならない。

(1月) 学位請求論文申請等の提出物

■提出物

①学位論文審査願（規定書式）・・・・・・・・・・1部

※審査願には主任指導教員の自筆の署名と捺印があるかチェック
論文題目提出時から題目が変わってないか確認。

②学位請求論文（正本）・・・・・・・・・・1部

③学位請求論文の内容要旨（任意書式）・・・・4部

④学位請求論文の内容要旨のデータ・・・・・・・・1部

※④と⑦のデータは同じ任意媒体に入れて提出でよいです。

⑤データの作品

※作品が現物の場合は提出不要。

審査対象の作品は①学位論文等審査願の2ページ目「作品リスト」に記載すること。

⑥学位請求論文（副本）・・・・・・・・・・4部

⑦学位請求論文電子データ（USB等の任意媒体）1部

※原則として媒体は返却しません。

⑧論文提出前の自己チェックリスト・・・・・・・・1部

作品リスト、論文（作品解説書）に作品に関して記述すること。

※②⑥の見本は事務局に設置しているので、各自確認をすること。

1月に提出の上記「作品」の提出様式について

＜マンガ作品の場合＞

デジタル作品の場合、データを提出。作品リスト、論文に作品について記載をすること。

アナログ作品の場合、製本した作品を公聴会前の展示締切日までに展示を行うこと。作品リスト、論文に作品について記載をすること。

＜イラストレーション作品の場合＞

デジタル作品の場合、データを提出。作品リスト、論文に作品について記載をすること。

アナログ作品の場合、公聴会前の展示締切日までに展示を行うこと。作品自体は完成させている状態であることが分かるよう、作品リスト、論文に記載をすること。

＜アニメーション作品の場合＞

データで作品を提出すること。作品リスト、論文に作品について記載をすること。

＜ゲーム作品の場合＞

デモ映像等を作品に含む場合はデータを提出すること。

ゲーム作品自体は完成させている状態であることが分かるよう、作品リスト、論文に記載をすること。

＜メディアデザイン作品の場合＞

デジタル作品の場合、データを提出。作品リスト、論文に作品について記載をすること。

アナログ作品の場合、作品を公聴会前の展示締切日までに展示を行うこと。作品自体は完成させている状態であることが分かるよう、作品リスト、論文に記載をすること。

＜立体作品の場合＞

業者に作成依頼中の場合は、発注データを提出すること。

大型の作品等の組み立てが不可能な作品などは主指導教員の許可を得て、設計書等の提出で代替可とする。

※指定する展示締切時までに審査ができる状態で作品の展示を行うこと。

2：中間報告会 及び 予備報告会

研究成果のアピール及び進捗状況、また今後の進め方について発表するため、中間報告会及び予備報告会を実施する。**原則全員必ず**出席することとする。この中間報告会及び予備報告会は本学指導教員が審査をし、研究内容不十分、または、口頭で伝える能力を有していないと判断した場合は、学位請求論文の提出及び公聴会への参加を認めない場合がある。

(口頭試問を希望する学生は、指導教員の許可が必要となる。)

■ 中間報告会(1年次)

1年次生：1月実施

発表時間：一人15分(発表：10分、質疑応答5分)

■ 予備報告会(2年次)

2年次生：9月実施

発表時間：一人15分(発表：10分、質疑応答5分)

※1年次生は当日運営を行うため必ず出席すること

■ 内容

学位請求論文・研究の内容に関する発表

■ 発表の事前準備・提出物について

- ・必ず事前に指導教員から発表内容の確認を受けること。
- ・発表内容レジュメは所定フォーマットを用いて準備し、期日までに指定部数を印刷し提出すること。(時間厳守)
- ・発表には、パワーポイントで作成した発表用データを用いて発表を行うこと。
- ・レジュメの PDF データは A4 用紙 4ページ以内にまとめること。
- ・レジュメ、発表用パワーポイント等には必ず日本語のフォントを使用すること。
(中国語等の日本語以外のフォントは使用しないこと)
- ・レジュメ、発表用パワーポイント等にはフリーイラストやフリー音楽素材は使用しないこと。

3：学位請求論文公聴会 2026年2月10日（火）※大学院生全員参加

2月頃、学位請求論文提出者の論文内容に関する公聴会を実施する。修士の学生は、必ず出席することとする。この公聴会における審査は、主指導教員を除く主査1名副査2名によって行われる。合格点は60点以上とする。

発表時間：一人20分（発表15分、質疑応答5分）

■ 内容

学位請求論文・研究の内容に関する発表

■ 発表の事前準備・提出物について

- ・必ず指導教員の指導を受け、提出物は全て指導教員の承認を得た後に提出すること。
- ・発表内容レジュメは別紙の「公聴会レジュメと発表用資料の作成・提出要領、注意点について」をよく読み、所定フォーマットを用いて期日までに指定部数を印刷し提出すること（時間厳守）
- ・レジュメのPDF データは A4 用紙 4 枚以内にまとめること。
- ・発表には、パワーポイントで作成した発表用データを用いて発表を行うこと。
- ・レジュメ、発表用パワーポイント等には必ず日本語のフォントを使用すること。
（中国語等の日本語以外のフォントは使用しないこと）
- ・レジュメ、発表用パワーポイント等にはフリーイラストやフリー音楽素材は使用しないこと。

■ 公聴会展示・展示審査について

- ・公聴会展示は指定する日付までに審査できる状態とすること。（展示作品を確認するためにパソコン、モニター等の電源をつける必要がある場合は電源をつけること）
- ・公聴会展示時には研究発表用ポスター（A1サイズ）、各個別の作品キャプションは最低限作成すること。
- ・展示に必要最低限のもの（展示台、パーテーション、ライト）は指定時期に申請を行い、学内備品などより貸出を行う。
- ・研究作品に関連しないものは置かない。
- ・展示作品に関して審査委員に展示作品について説明する時間を設けるので、指定時間に展示会場で説明を行うこと。

※展示準備、設営に関して学生自身が行います。展示に関しても審査がなされます。

4：修了制作展（2年次）2026年2月7日（土）・2月8日（日）

2月中旬頃、学部卒業制作展と合同で、修了制作展を開催する。2年次の学生は、必ず出席することとする。作品の完成度や展示方法、また、修了制作展の準備に取り組む姿勢、積極性を評価する。

■卒展修了制作展委員について

大学院2年生から最低1人選出を行う。図録掲載、卒業修了制作展の連絡を行う必要がある。

■図録について

卒展修了制作展委員の指示に従い、規程フォーマットで期日までに資料提出を行うこと。期日までに提出がなされない場合や不備があった場合は図録に掲載されません。

■教室設営について

2026年2月3日（火）補講授業が終了次第、教室の設営を行うこと。詳細な時間に関しては決まり次第連絡が行われるのでTeamsをよく確認すること。

レンタル品等希望の提出を過ぎたあとに申し込んだものは一切貸出を行わないので注意すること。

■修了制作展設営について

2025年2月4日（水）～2月6日（金）17時まで

■修了制作展当日の服装に関して

卒展修了制作展委員の指示に従うこと。例年、スーツやオフィスカジュアルが求められる。

■修了制作展片付けに関して

2月12日（木）にレンタル品等の片づけを行う。必ず全員が参加すること。

審査ルーブリックの審査項目

形式 A

- 1.論文において、研究の課題設定が明確に示され、学術的あるいは社会的な意義が認められるか。
- 2.研究主題の探求に際して利用した資料や文献が適切に提示され、精確な読解や的確な評価を行い、論旨を展開するうえで適切に言及されているか。
- 3.研究主題探求のために採用された、理論、実験、シミュレーション、試作・試行、調査あるいは資料収集などの研究方法は適切か。
- 4.問題設定から結論にいたる論旨が、実証的かつ論理的に展開されているか。
- 5.導き出された論旨・結論が、当該分野において新規性を持った学術的貢献や有用性のある社会貢献と認められるか。
- 6.語句の使い方や文章表現は的確かつ文献等は正しく引用され、図表等の引用元は明らかに示されているか。
- 7.論文タイトル、副題は適切か。
- 8.学位論文としての体裁は整っているか。
- 9.公聴会において適切な発表と質問に対する回答がなされているか。
- 10.研究展示において学会発表や外部展示、公募展への応募などを積極的行ったことが確認でき、かつ、研究内容が過不足なく適切に展示されているか。

形式 B

- 1.論文・作品のテーマが正しく設定され、技術的、芸術的、あるいは社会的な意義、芸術表現者としての資質、将来性を有すると認められるか。
2. 論文・作品に際して参考となる先行作品・先行研究の調査が的確に行われているか。
- 3.先行作品・先行研究の調査から得た知見が作品制作に適切に(客観的かつ論理的に)活用されているか。
4. 研究主題探求のために採用された、理論、実験、シミュレーション、試作・試行、調査あるいは資料収集などの研究方法は適切か。
- 5.問題設定から結論にいたる論旨が、実証的かつ論理的に展開されているか。
6. 導き出された論旨・結論が、当該分野において新規性を持った学術的貢献や有用性のある社会貢献と認められるか。
7. 語句の使い方や文章表現は的確かつ文献等は正しく引用され、図表等の引用元は明らかに示されているか。
- 8.学位論文としての体裁は整っているか。
- 9.公聴会において適切な発表と質問に対する回答がなされているか。
10. 研究展示において学会発表や外部展示、公募展への応募などを積極的に行ったことが確認でき、かつ、研究展示において研究内容が過不足なく適切に展示されているか。

形式 C

- 1.作品説明書に、作品の課題設定が明確に示され、技術的、芸術的、あるいは社会的な意義が認められるか。
- 2.作品説明書に、作品制作に際して参考となる先行作品・先行研究の調査が的確に示されているか。
- 3.作品説明書に、先行作品・先行研究の調査から得た知見が適切に(批判的かつ効果的に)示され、作品制作に活用されているか。
- 4.作品解説書に、設定された課題解決に対する新規性のある独自の結論が示されているか。
- 5.作品説明書の語句の使い方や文章表現は的確かつ文献等は正しく引用され、図表等の引用元は明らかに示されているか。
- 6.作品解説書としての体裁は整っているか。
- 7.課題設定に対し、作品制作方法は妥当で、技術的課題は克服できているか。
- 8.完成した作品は、課題設定に応える十分な表現と認められるか。
- 9.公聴会において適切な発表と質問に対する回答がなされているか。
10. 研究展示において学会発表や外部展示、公募展への応募などを積極的に行ったことが確認でき、かつ、研究展示において研究内容が過不足なく適切に展示されているか。